

科目名	キリスト教倫理特論
科目責任者	仲 義之
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春
科目の位置付	1. 「生命の尊厳と隣人愛」の精神を基盤とする倫理観を身に付け、研究・実践および自らの行動に反映することができる
科目概要	<p>聖書が語る倫理的な教えを取り上げながら、授業を進めていきます。</p> <p>旧新約聖書にある「モーセ五書」「歴史書」「預言書」「文学」「福音書」「パウロ書簡」から倫理的な教えを学びます。</p> <p>旧・新約聖書を実際に関きますので、必ず入手の上、授業に持参してください。</p> <p>また、主にキリスト教分野における神学者・哲学者の文献と対話をし、倫理問題の思考を近代・現代的な側面からも深めていきます。</p> <p>講義が中心になりますが、議論・意見交換が課される場面もあります。</p> <p>シラバスに載せた参考図書について意見交換をしながら進めていきます。</p>
到達目標	聖書とキリスト教の歴史から、建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」の根底に流れている倫理的判断について深く細やかに考察し、医療・保健の現場での実践における判断の礎とする。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：聖書について 「契約」と「倫理」。物語と犠牲の重要性。神の自由なる決定。</p> <p>第2回：聖書の世界観について 天地創造と人間の関係性を中心に。「責任と自由」</p> <p>第3回：創世記第1章～3章 エデンの園 神（創造主）と人間（被造物） 原罪・罪・死（人間の有限性）について ・『ギリシャ神話』や『古事記』に見る人間観との比較。</p> <p>第4回：十戒（出エジプト20：1～ 申命記5：1～）に代表される律法について 衛生管理や医学的な問題、「血と命」に関する律法の記述について レビ記17：10～ 申命記12：23～</p> <p>第5回：福祉の問題、人間の罪、弱さなどに関する律法の記述について レビ記19：11～ 箴言19：17 28：21 『ルツ記』ルツ記2：1～「落穂拾い」の規定。 「最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたこと。」（マタイ25：40） ピューリタン革命とマザーテレサ。</p> <p>第6回：剣の権力について 「目には目、歯には歯」 出エジプト記21：24～25（『ハンムラビ法典』） 黄金律（Golden Rule）についてマタイ7：12。 ダビデ王に象徴される王権（剣の権力）と「税金」について</p> <p>第7回：イスラエル王国の発展と分裂、及びバビロン捕囚へ。 ソロモン王の知恵と、メシアとしてのペルシャ王キュロス。</p> <p>第8回：イエス・キリストの十字架における贖罪 聖書の捉え方。アンセルムスの贖罪論 賀川豊彦「贖罪」について</p> <p>第9回：「赦し」の倫理。 姦通の女「あなたを罪に定めない」ヨハネによる福音書8：1～11 十字架と終末。刑罰についての考え方。パウロの倫理観。『ローマ』（7章） 「自分の内には、つまりわたしの肉には、善が住んでいない。」18節</p> <p>第10回：キリスト教の歴史における、古代から中世の倫理観 アウグスティヌスの倫理。自由意志の問題。 トマス・アクィナスの視点。枢要徳 virtutes cardinals 中世のキリスト教を前提とする諸国家の倫理あり方。カノッサの屈辱</p> <p>第11回：宗教改革者たちにおける聖書主義が世界と社会に与えた意義と、神の国を目指す倫理的構えにおける諸実践。</p>

	<p>カルヴァン主義やピューリタン革命、及びアメリカ建国について。 マックス・ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』 第12回：カント倫理学について。キリスト教の視点からの洞察。「定言命法と仮言命法」『道徳形而上学の基礎付け』を参考にしつつ。 アメリカの奴隷問題等、この時代の倫理的諸問題について。 第13回：19世紀後半からの反キリスト教思想における倫理的諸問題。 倫理自体に対するニーチェの情熱的反論。『道徳の系譜学』『ルサンチマン』を中心に。自己言及のパラドクスと悔い改め。 マルクスが考えた事。『ユダヤ人問題によせて ―ヘーゲル法哲学批判序説』 第14回：20世紀以降のキリスト教における倫理的諸問題。 ・経済的発展の問題と倫理。 ・神学から（カール・バルトの倫理。） ・戦争や差別の解消。キング牧師の問題意識。 ・キリスト教内部における倫理的諸問題「スポットライト」 第15回：まとめ。イエス・キリストの隣人愛について。 聖隷学園の礎 ヨハネ13：1～15 洗足のイエス 「仕えられるためでなく仕えるために」マルコ10：45他 「人格」（教育基本法より）として尊重し合うということと、キリスト教における三位一体の交わりについて。</p>				
学修方法	講義形式を取りますが、テーマに関する議論・意見交換を行いながら進めます。				
評価方法	毎回の議論への参加度とリアクションペーパー（50%）レポート提出（50%）によって評価します。				
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーへの対応は、授業の中で行います。				
指定図書	『聖書』新共同訳 日本聖書協会				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	配布されるプリント、論文等を読み、一定の理解をしてから参加し、積極的に議論・意見交換に参加できるよう備えること。				
オフィスアワー	研究室はキリスト教センター内にあります。 時間等については初回の授業で説明します。				

科目名	保健医療倫理学特論
科目責任者	大石 ふみ子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	1. 「生命の尊厳と隣人愛」の精神を基盤とする倫理観を身に付け、研究・実践および自らの行動に反映することができる
科目概要	保健医療福祉における生命倫理の概念を理解するとともに倫理的問題解決技法等を身につけることを通して倫理的判断能力および倫理的調整能力を修得する。
到達目標	1. 生命倫理の概念を保健医療福祉の観点から具体的に理解することができる。 2. 倫理上の基本原則、倫理綱領、患者の権利を理解し、これらに含まれる基本的概念を具体化できる。 3. 保健医療福祉の実践および研究における倫理的問題・葛藤について問題解決技法等を活用して倫理的判断、倫理的調整を導くことができる。
授業計画	<p>授業内容・テーマ等 担当教員</p> <p>第1回： 生命倫理の基本的考え方、倫理的問題・葛藤と責務 大石 ふみ子</p> <p>第2回： 倫理的判断のよりどころ（倫理上の基本原則、倫理綱領他） 大石 ふみ子</p> <p>第3回： 生命の始期にまつわる倫理的課題の検討 小笹 由香</p> <p>第4回： 生命の始期にまつわる倫理的課題と看護：遺伝カウンセリング 小笹 由香</p> <p>第5回： 倫理的意思決定のプロセスと倫理的調整の検討（事例①） 大石 ふみ子</p> <p>第6回： 倫理的意思決定のプロセスと倫理的調整の検討（事例②） 大石 ふみ子</p> <p>第7回： 小児と倫理 基礎的知識・理論 宮谷 恵</p> <p>第8回： 小児と倫理 臨床での倫理的課題 宮谷 恵</p> <p>第9回： 倫理的問題に関わる基本的な概念と事例の検討（1）インフォームド・コンセント 藤浪 千種</p> <p>第10回： 倫理的問題に関わる基本的な概念と事例の検討（2）アドボカシー 藤浪 千種</p> <p>第11回： 倫理的問題に関わる基本的な概念と事例の検討（3）Quality of life 大石 ふみ子</p> <p>第12回： 倫理的問題に関わる基本的な概念と事例の検討（4）プライバシー 大石 ふみ子</p> <p>第13回 臨床研究等における倫理申請の流れ 大原重洋</p> <p>第14回 倫理申請書の構成と作成の実際 大原重洋</p> <p>第15回 倫理原則と職能団体の倫理綱領 大原重洋</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第1-15回</p>

学修方法	講義、演習およびテーマにそった学生のプレゼンテーションを元に討議形式ですすめます。日々の実践で遭遇する倫理上の問題を取り上げ、倫理の基礎知識をもとにした倫理的判断の方法を学修します。感性を研ぎ澄まして日頃の実践をふりかえり、クラスで討議する事例を持って参加し、講義後は学修内容をふり返る。				
評価方法	1. 授業資料の準備とプレゼンテーション、討議への参加状況 60% 2. 提出物、課題レポート 40%				
課題に対するフィードバック	1. 授業資料の準備は予め担当教員に相談し、課題のフィードバックをプレゼンテーション前に行う。 2. 討議の内容についてはクラス中に課題が明確になるようファシリテートする。				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
参考書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
事前・事後学修	これまでの倫理に関わる学修を振り返り、各課題において自分なりの「倫理」「倫理観」「倫理上の問題」に関する考えや、クラスで討議する事例を持ってクラスに臨んでください。また、日々の実践で遭遇する倫理上の問題を取り上げ、倫理の基礎知識をもとにした倫理的判断の方法についてクラス後に反復して考える。感性を研ぎ澄まして日頃の実践を振り返る。(事前・事後学修約40分)				
オフィスアワー	看護学研究科 宮谷 恵：月曜日 14:00～17:00 (1713 研究室) e-mail:megumi-m@seirie.ac.jp 看護学研究科 大石ふみ子：水曜日 11:45～13:00 (1219 研究室) e-mail:fumiko-o@seirei.ac.jp 看護学研究科 藤浪 千種：水曜日 11:45～13:00 (1208 研究室) e-mail:chigusa-f@seirei.ac.jp 大石：1219 研究室 リハビリテーション学研究科 大原重洋：3405 研究室 水曜日：8:50～10:00 shigehiro-o@seirei.ac.jp 臨地看護学実習などの予定により変更の可能性があるので、事前にメールで予定の確認を取ってください。				

科目名	健康増進・医療経済政策特論
科目責任者	西川 浩昭
単位数他	2単位 (30時間) 選択 秋
科目の位置付	(3) 幅広い視野を持ち、俯瞰的なものの見方と専門応用力を駆使して、問題発見と解決を図ることができる (6) 他の専門職者、研究者や学生との連携・協働し、リーダーシップを発揮して課題解決に取り組むことができる
科目概要	健康や医療に関連する問題を多面的にとらえることを目的として、問題の捉え方、問題の整理方法、問題を解決する能力を学修することを目的とする。本科目で扱う内容は変化が著しいという特徴があるが、比較的新しい内容を解説している、集中講義録を輪読し、理解を深める。
到達目標	1 健康増進(ヘルスプロモーション)、医療政策について理解し、その概要について説明できる。 2 我が国の医療費をはじめとする医療経済における問題を適正に捉え、分析、評価できる。 3 わが国の医療政策の問題について、総合的に評価できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回～第15回 以下の各問題についてのプレゼンテーションとディスカッション</p> <p>第2回 保健・医療政策の歴史的変遷</p> <p>第3回 社会保障制度改革</p> <p>第4回 医療・福祉財政</p> <p>第5回 医療費</p> <p>第6回 医療計画</p> <p>第7回 医療の質</p> <p>第8回 医療・介護提供体制</p> <p>第9回 医療政策とその評価</p> <p>第10回 地域医療構想</p> <p>第11回 少子高齢化対策</p> <p>第12回 年金問題</p> <p>第13回 危機管理</p> <p>第14回 感染症対策</p> <p>第15回 疾病予防</p> <p>上記の第2回～第15回のテーマは一例で、受講者の希望に応じます。 また、順序についても、履修者の予定・希望を踏まえて決定します。</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第2-15回</p>

学修方法	第1回は講義、第2回～第15回は受講者による発表と質疑応答、討論です。受講者数にもよりますが、複数回担当する可能性があります。 遠隔授業の実施予定はありません。				
評価方法	授業における成果 100% (発表 50%、質疑応答 25%、まとめレポート 25%)				
課題に対するフィードバック	発表、質問に対する回答、コメントします。				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
参考書	下記記載のとおり				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
社会を変える健康のサイエンス	東京大学医学部 健康総合科学科 編	東京大学出版会	2500	9784130634069	1
事前・事後学修	事前学修： 第1回は不要です。第2～15回はプレゼンテーションの担当の場合約5～6時間、担当で無い場合でも、指定図書等の当日発表される部分に目を通しておいて下さい。 事後学修： 各回の内容について各人の必要に応じて学修してください。目安の時間は各回30分～90分です。				
オフィスアワー	西川浩昭 (1620 研究室) E-mail: hiroaki-ni@seirei.ac.jp 時間・連絡方法等については初回授業時に提示します。				

科目名	臨床疫学特論－EBM 実践入門－
科目責任者	西川 浩昭
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら探索し、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる
科目概要	EBM(Evidence Based Medicine 科学的根拠に基づく医療)とは「入手可能な範囲で最も信頼できる根拠(質の高いエビデンス)を把握したうえで、理に適った医療を行うこと、あるいはこれを行うための一連の行動指針」である。この一連の過程を遂行するためには、データベースへアクセスして目的とする文献を効率よく探し出す能力(コンピュータリテラシー)、文献を吟味できる能力(臨床疫学、生物統計学の知識)が必須となる。 これらのうち、この科目では臨床疫学を中心に学修する。臨床疫学の名著とされる Fletcher の Clinical Epidemiology が和訳されたので、これを輪読する。受講者が内容をまとめて簡単なプレゼンテーションを行い、他の参加者との質疑応答、討論を行なう。
到達目標	1. 疾病の頻度を測定する方法を学習する。 2. 疾病の原因を特定する方法を理解する。 3. 治療の有効性を評価する方法を学ぶ。 4. 疾病の予後を予知する方法を学習する。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回 オリエンテーション、序論 第2回 頻度 第3回 異常 第4回 リスク1－基本原理 第5回 リスク2－疾病への曝露 第6回 リスク3－疾病から曝露へ 第7回 予後 第8回 診断 第9回 治療 第10回 予防 第11回 偶然性 第12回 原因 第13回 エビデンスの要約 第14回 知識管理 第15回 効果測定、まとめ</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第2-15回</p>

学修方法	第2回～第15回の各回は講義と演習の組み合わせで、学生による発表が課されます。遠隔授業の実施予定はありません。				
評価方法	授業における成果 100% (発表 50%、質問に対する回答 30%、まとめのレポート 20%)				
課題に対するフィードバック	プレゼンテーションの内容に関して補足説明、解説を行います。				
指定図書	下記記載のとおり				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
臨床疫学第3版	福井次矢	メディカル・サイエンス・インターナショナル	5000	9784895928533	冊子版
参考書	Clinical Epidemiology (The Essentials), M.D. Fletcher, Grant S. , Lippincott Williams & Wilkins, ISBN: 978-1975140984				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
事前・事後学修	<p>学部レベルの疫学の知識が必須となります。これについては各自で学習してください。事前学修は指定図書の自己学習です(標準的な学力を備えた学生でプレゼンテーションの担当の場合約5～6時間、担当で無い場合でも、指定図書の当日発表される部分に目を通しておいて下さい)。</p> <p>前回までの教授内容が習得されていることが、受講にあたって望まれます。教科書の章末の復習問題を中心に各人の必要に応じて事後学修してください。</p>				
オフィスアワー	西川浩昭(1620 研究室) E-mail: hiroaki-ni@seirei.ac.jp 時間・連絡方法等については初回授業時に提示します。				

科目名	実験的研究法
科目責任者	熊澤 武志
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春 semester
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	実験的研究法の具体的な展開方法を理解するとともに、研究論文のクリティーク方法を学修する。
到達目標	1. 実験的研究方法を学び、修士研究の計画を立てることができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第1回：オリエンテーション・実験研究のすすめ方 1 熊澤 武志 授業に関するオリエンテーションと実験的研究法の総論について学ぶ</p> <p>第2回：実験研究のすすめ方 2：文献レビュー 吉本 好延 PubMed を用いて文献検索の方法を学ぶ</p> <p>第3回：実験研究のすすめ方 3：文献レビュー 吉本 好延 自身の研究領域の先行研究を整理し、代表的な先行研究を口頭で発表する</p> <p>第4回：研究デザインと統計分析 1 柴本 勇</p> <p>第5回：研究デザインと統計分析 2 柴本 勇</p> <p>第6回：実験研究の検証方法と結果の読み取り 根地嶋 誠 筋電図を用いて実験方法と結果の読み取りについて学ぶ</p> <p>第7回：実験研究の検証方法と結果の読み取り 根地嶋 誠 筋電図を用いて実験方法と結果の読み取りについて学ぶ</p> <p>第8回：実験的研究法の実際その 1 安田 智洋 筋力トレーニング理論と介入効果について学ぶ 1</p> <p>第9回：実験的研究法の実際その 2 安田 智洋 筋力トレーニング理論と介入効果について学ぶ 2</p> <p>第10回：実験的研究法の実際その 3 伊藤 信寿 発達領域におけるデータ収集と分析について学ぶ</p> <p>第11回：実験的研究法の実際その 4 佐野 哲也 リハビリテーション領域におけるデータ収集と分析について学ぶ</p> <p>第12回：実験的研究法の実際その 5 谷 哲夫 発話に関連するデータの収集と分析について学ぶ</p> <p>第13回：実験的研究法の実際その 6 炭谷 正太郎 身体侵襲を伴う研究における法的解釈と倫理について学ぶ</p> <p>第14回：実験的研究法の実際その 7 乾 友紀 看護領域における実験研究と生化学的な分析について学ぶ</p> <p>第15回：実験的研究法の実際その 8 熊澤 武志 生体成分分析法の実際と研究の展開について学ぶ・まとめ</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第 1-15 回 実務家教員や実務家による授業：第 1-15 回</p>

学修方法	講義、課題発表、討議、実習などの授業が行われます。				
評価方法	課題発表・討議・実習・リフレクション課題（50%）、レポート（50%）				
課題に対するフィードバック	課題発表や討議した後等は、必要に応じて教員よりフィードバックします。				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	実験的研究に関する課題、文献抄読の課題、発表の準備等が必要です。				
オフィスアワー	オフィスアワーの時間・連絡方法については、各担当教員が初回授業時に提示します。				

科目名	社会調査特論
科目責任者	大場 義貴
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら探索し、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	社会調査やヒューマンサービスにおける研究は、ある問題意識のもとに設定された仮説を検証するために、情報を収集し、それを認識論的枠組みにそって分析解釈することにとどまらず、問題意識から幅広く情報を収集し、一定の法則にしたがってそこから理論や仮説を産出することも重要な知的活動であろう。社会調査特論ではヒューマンサービスにおける社会調査の枠組みと方法について学ぶ。
到達目標	1. 大学院での研究する意味を説明できる。 2. 代表的な研究方法について類別できる。 3. 修士研究のための道筋を説明できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>大場義貴、福田俊子、野田由佳里、泉谷朋子</p> <p>第 1 回：ガイダンス / 実践と調査研究の関連 大場義貴 第 2 回：研究のルールと研究倫理 大場義貴 第 3 回：研究デザインと研究計画 大場義貴</p> <p>第 4 回：量的調査について 野田由佳里 第 5 回：調査票の作成方法 野田由佳里 第 6 回：一変量解析 (単純集計、基本統計量、信頼区間など) 野田由佳里 第 7 回：二変量解析 (クロス集計、有意差検定、相関分析、回帰分析など) 野田由佳里 第 8 回：質的調査による研究の実際 福田俊子 第 9 回：質的研究の概要 福田俊子 第 10 回：インタビュー調査の技法 福田俊子 第 11 回：データの分析 福田俊子 第 12 回：政策研究① 泉谷朋子 第 13 回：政策研究② 泉谷朋子 第 14 回：混合研究法 泉谷朋子 第 15 回：まとめ 各自の研究計画素案の確認 (調査方法の共有) 大場義貴</p> <p>※本科目は対面での実施を原則とします</p>

学修方法	「講義」を中心とするが、適宜「グループワーク」、「討論」、「発表」による学修も行う。				
評価方法	中間レポート 50%、レポート 50%				
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー（感想、意見、質問等）を中心にフィードバックする。				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	下記記載のとおり				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
社会科学の考え方 認識論、リサーチ・デザイン、手法	野村康／著	名古屋大学出版会	3600	9784815808761	1
事前・事後学修	事前学修：事前課題を行っておく。 事後学修：講義内容について振り返り整理しておく。（目安時間 40 分）				
オフィスアワー	研究室（2608）にて、自由に研究相談に応じます。時間については、初回授業で提示します。				

学修方法	講義、ディスカッション、発表など。条件を満たせば 遠隔授業を受講することができる。				
評価方法	授業への取り組み(50%)、ディスカッションへの参加状況(50%)などを総合的に評価する。				
課題に対するフィードバック	課題の解説、リアクションペーパーのコメント				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
参考書	「The Essentials of Anatomy and Physiology」 1th Ed. Gerard J. Tortora, Bran Derrickson Visible Body (アプリ)				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
事前・事後学修	各テーマに関連する基礎知識を事前学修すること。講義内容、配布資料、課題などを参考し、事後学修して下さい。(1コマ当たり約40分以上)				
オフィスアワー	所属：リハビリテーション科学研究科 研究室：3404 研究室 時間等：毎週火曜日 12時～13時 上記以外でも随時受け付けます。不在の時にはメール (juchi-k@seirei.ac.jp) か研究室前のボードで遠慮なくアポイントを取ってください。				

科目名	心理学特論
科目責任者	藤田 美枝子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春
科目の位置付	3. 幅広い視野を持ち、俯瞰的なものの見方と専門応用力を駆使して、問題発見と解決を図ることができる。
科目概要	本講義は、各自が所属する領域において心理学の視点をもって実践の場で活用できるよう、心理学の基盤となる知識と臨床的視点を学ぶことを目的とする。保健医療、福祉、教育などの様々な領域における心理的支援について、子どもや家族等をめぐる問題への心理・社会的アプローチの方法を通して学ぶ。その際、事例を用いたグループワークによる体験学習を取り入れる。
到達目標	1. 対象への心理的支援が可能となるための臨床心理学の知識と技法を学ぶ。 2. グループワークを通して自己理解、他者理解を深め、心理的支援の実践力をつける。 3. 対人援助職にある者として、自分の心理的特性について理解する。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第Ⅰ部 臨床における心理実践活動 第1回：臨床心理学とは何か 第2回：臨床心理実践の構造とプロセス 第3回：心理的アセスメント</p> <p>第Ⅱ部 臨床心理学の基本モデル 第4回：臨床心理学の歴史 第5回：心理実践と研究 第6回：生物 - 心理 - 社会モデルとチームアプローチ</p> <p>第Ⅲ部 事例における心理的アプローチの方法 第7回：人間性アプローチ（クライアント中心療法） 第8回：精神力動的アプローチ（精神分析学） 第9回：行動主義（行動療法） 第10回：認知モデル（認知行動療法）</p> <p>第Ⅳ部 事例における心理社会的アプローチの方法 第11回：システム論（家族療法） 第12回：コミュニティアプローチ（コミュニティ心理学） 第13回：社会構成主義（ナラティブ・アプローチ） 第14回：社会問題化する心理的問題—児童虐待をめぐって— 第15回：物語と心理的支援</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第1-15回</p>

学修方法	講義による知的学習とグループによる体験学習を組み合わせる。自分の意見や疑問を持ち、能動的に学ぶ姿勢が望ましい。				
評価方法	講義中の小レポートおよび受講態度 50%、最終レポート 50%				
課題に対するフィードバック	グループ討議や小レポート等の内容を共有しながら、フィードバックを行い進める。				
指定図書	授業内で適宜資料を提示する				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
参考書	授業内で適宜資料を提示する				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
事前・事後学修	与えられたプリント等を事前によく読み、事後学習は授業や議論の内容をまとめ、質問を考えて次回の授業に臨むこと。(目安時間は、事前・事後学習それぞれ 40 分程度)				
オフィスアワー	場所は 2 号館の 2610 研究室。時間については初回授業時に提示します。 メールでしたらいつでも受け付けます。				

科目名	教育方法学特論
科目責任者	藤崎 和彦
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春
科目の位置付	3. 幅広い視野を持ち、俯瞰的なものの見方と専門応用力を駆使して、問題発見と解決を図ることができる
科目概要	1. 近年の医学教育改革の動向について理解し、近年医学教育で急速に導入されている PBL、OSCE、ロールプレイなどについて、演習を通して学習する。 2. 医療系教育における教育改革・生涯学習と多職種連携の取り組み。
到達目標	1. 受講者が近年の医学教育改革の動向について述べるができる。 2. 受講者が自分の担当するカリキュラムの計画作りができる。 3. 受講者が学習者中心の教育態度の重要性を理解する。 4. 受講者が医療専門職の育成に関する教育方法学を理解したうえで、多職種連携に関わる教育方法ならびに PBL 課題、OSCE の工程評価表が作成できる。 5. 受講者が学生及び新人に対する事例検討、臨床（実習）指導の基本技能を修得できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第 1-5 回：藤崎和彦 ワークショップ形式による演習 I 近年の医学教育改革の動向 カリキュラムプランニング I、PBL、ロールプレイ、skill lab などに関する概要</p> <p>第 6-10 回：藤崎和彦 ワークショップ形式による演習 II カリキュラムプランニング II、OSCE、模擬患者など</p> <p>第 11-12 回：内山靖 理学・作業療法学、看護学、社会福祉学領域における教育改革の取り組み 地域・在宅での予防とリハビリテーションの基本と実践演習 コンサルテーション 基本理論と事例によるグループワーク・実践演習</p> <p>第 13-15 回：内山靖 健康関連専門職のコア・コンピテンシーとグループワーク PBL、OSCE の作成とシミュレーションによる実践演習 多職種連携による事例検討、臨床（実習）教育方法のロールプレイ</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第 1-10 回、第 11-15 回</p>

学修方法	藤崎) 講義、グループワーク、討論、発表を含むワークショップ形式で行います。 内山) 「講義」「グループワーク」「討議」「発表」				
評価方法	授業参加、レポートなどにより、総合的に評価する (100%)。				
課題に対するフィードバック	藤崎) 初回の講義後レポートに対するフィードバックを、次回講義時に行います。 内山) 当日講義中の演習課題・討議を後の講義時間で解説・フィードバックします。				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
参考書	(藤崎) 『医学教育マニュアル〈1〉医学教育の原理と進め方』日本医学教育学会教育開発委員会編篠原出版新社 『医学教育ABC—学び方, 教え方』吉田一郎訳、篠原出版新社 『実践PBL チュートリアルガイド』吉田一郎、大西弘高編、南山堂 『基本的臨床技能の学び方・教え方』日本医学教育学会臨床能力教育ワーキンググループ編、南山堂 『医学医療教育用語辞典』日本医学教育学会医学医療教育用語辞典編集委員会編、照林社 『医療プロフェッショナル ワークショップガイド』日本医学教育学会FD 小委員会編 (内山) 『理学療法学教育論』奈良勲編、医歯薬出版株式会社、2004 『基本的臨床技能の学び方・教え方』日本医学教育学会編、南山堂、2002				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
事前・事後学修	事後学習用の参考文献を示します。				
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。				

科目名	保健科学英語特論																														
科目責任者	Donald Patterson																														
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春																														
科目の位置付	7. 学際的かつ国際的な視野をもち、海外の専門家と交流することができる																														
科目概要	保健科学に関連する英語文献を読んで医療英語に慣れ、各自の専門分野の論文を読みながら医療系論文の概要と特徴を習得する。																														
到達目標	1. 英語の論理構造や特徴を日本語と比較しながら理解する。 2. 英語文献の基本的表現や用語に慣れる。 3. 医療系論文の概要と特徴を学び、専門分野の論文を読む。																														
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>Donald Patterson、柴本 勇、Christine Kuramoto、高橋 大生</p> <table> <tr> <td>第1回: Guidance : Search for Articles on your topic</td> <td>Donald Patterson</td> </tr> <tr> <td>第2回: Search for Articles on your topic</td> <td>Donald Patterson</td> </tr> <tr> <td>第3回: Read Abstracts & Related Subject</td> <td>Donald Patterson</td> </tr> <tr> <td>第4回: Read Abstracts & Related Subject</td> <td>Donald Patterson</td> </tr> <tr> <td>第5回: Write Structured Abstracts</td> <td>Donald Patterson</td> </tr> <tr> <td>第6回: Read Abstracts & Related Subject</td> <td>Christine Kuramoto</td> </tr> <tr> <td>第7回: Read Abstracts & Related Subject</td> <td>Christine Kuramoto</td> </tr> <tr> <td>第8回: Read Abstracts & Related Subject</td> <td>Christine Kuramoto</td> </tr> <tr> <td>第9回: Read Abstracts & Related Subject</td> <td>Christine Kuramoto</td> </tr> <tr> <td>第10回: Read Abstracts & Related Subject</td> <td>Christine Kuramoto</td> </tr> <tr> <td>第11回: Read Abstracts & Related Subject</td> <td>柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第12回: Read Literature & Related Subject</td> <td>高橋 大生</td> </tr> <tr> <td>第13回: Read Literature & Related Subject</td> <td>高橋 大生</td> </tr> <tr> <td>第14回: Read Literature & Related Subject</td> <td>高橋 大生</td> </tr> <tr> <td>第15回: Summary</td> <td>Donald Patterson</td> </tr> </table> <p>※授業内容は変更の可能性があります。 ※ZOOM を用いた双方向型授業を行う可能性があります。</p>	第1回: Guidance : Search for Articles on your topic	Donald Patterson	第2回: Search for Articles on your topic	Donald Patterson	第3回: Read Abstracts & Related Subject	Donald Patterson	第4回: Read Abstracts & Related Subject	Donald Patterson	第5回: Write Structured Abstracts	Donald Patterson	第6回: Read Abstracts & Related Subject	Christine Kuramoto	第7回: Read Abstracts & Related Subject	Christine Kuramoto	第8回: Read Abstracts & Related Subject	Christine Kuramoto	第9回: Read Abstracts & Related Subject	Christine Kuramoto	第10回: Read Abstracts & Related Subject	Christine Kuramoto	第11回: Read Abstracts & Related Subject	柴本 勇	第12回: Read Literature & Related Subject	高橋 大生	第13回: Read Literature & Related Subject	高橋 大生	第14回: Read Literature & Related Subject	高橋 大生	第15回: Summary	Donald Patterson
第1回: Guidance : Search for Articles on your topic	Donald Patterson																														
第2回: Search for Articles on your topic	Donald Patterson																														
第3回: Read Abstracts & Related Subject	Donald Patterson																														
第4回: Read Abstracts & Related Subject	Donald Patterson																														
第5回: Write Structured Abstracts	Donald Patterson																														
第6回: Read Abstracts & Related Subject	Christine Kuramoto																														
第7回: Read Abstracts & Related Subject	Christine Kuramoto																														
第8回: Read Abstracts & Related Subject	Christine Kuramoto																														
第9回: Read Abstracts & Related Subject	Christine Kuramoto																														
第10回: Read Abstracts & Related Subject	Christine Kuramoto																														
第11回: Read Abstracts & Related Subject	柴本 勇																														
第12回: Read Literature & Related Subject	高橋 大生																														
第13回: Read Literature & Related Subject	高橋 大生																														
第14回: Read Literature & Related Subject	高橋 大生																														
第15回: Summary	Donald Patterson																														

学修方法	講義と演習、提出物				
評価方法	授業参加活動 40%、提出物など 60%				
課題に対するフィードバック	論文読解発表へのコメント、英作文課題へのコメントで適宜行う				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
参考書	随時提示する				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
事前・事後学修	事前学修として毎時間提示する事前課題を行うこと。 事後学修として授業内容を復習して理解を深めること。目安時間 40 分。				
オフィスアワー	Donald Patterson 研究室：5704 メール：patterson@seirei.ac.jp Christine Kuramoto 研究室：5702 メール：christine@seirei.ac.jp 柴本 勇 研究室：3408 メール：isamu-s@seirei.ac.jp 高橋 大生 研究室：3569 メール：daiki-t@seirei.ac.jp メールで遠慮なくアポイントメントをとってください。				

科目名	マネジメント論
科目責任者	武居 敏
単位数他	2単位 (30時間) 選択 秋
科目の位置付	自らの専門分野以外の知識を修得することを通して幅広い視野を持ち、俯瞰的なものの見方ができ、自らの課題解決に生かすことができる
科目概要	福祉・医療サービスの経営管理を中心に置きながら、非営利組織のマネジメントを理解し、マネジメントの実践への応用について学ぶ。
到達目標	マネジメントとは何かを学修する。 福祉・医療サービスの経営管理を中心に、非営利組織のマネジメントを学修する。 マネジメントの理論を身につけ、その実践への応用力を習得する。
授業計画	<p>授業内容・テーマ等</p> <p>第1回：マネジメントの概要 科目の目標、総論、担当事例の検討と決定 講義</p> <p>第2回：組織と経営、経営戦略 ミッション、組織と経営の基礎的内容、経営戦略とは 講義</p> <p>第3回：サービスマネジメント① サーマネジメント・リスクマネジメント サービスマネジメントの基本 マーケティング、環境分析、サービスの評価、広報等 講義</p> <p>第4回： // ② サーマネジメント・リスクマネジメントに関する事例研究</p> <p>第5回： // ③ 経営戦略とサービスマネジメント SWOT分析演習・グループワーク</p> <p>第6回： // ④ 多職種連携 社会福祉、医療等の分野における多職種連携と地域共同 講義</p> <p>第7回：モチベーション 個人と集団の行動、モチベーション理論 講義</p> <p>第8回：コミュニケーション 個人と集団の行動におけるコミュニケーション 講義</p> <p>第9回：リーダーシップ① リーダーシップに関する体験学習 グループワーク</p> <p>第10回： // ② メンバーシップ・リーダーシップの基礎理論、ファシリテーション 講義</p> <p>第11回：人事管理・労務管理 ヒューマンリソースマネジメントの基礎、労働法と労務管理 講義</p> <p>第12回：人材育成 キャリアパスと能力開発 講義・演習</p> <p>第13回：財務管理① 財務管理の基礎、計算書類 講義</p> <p>第14回：財務管理② 実際の計算書類を通して行う経営分析 事例研究</p> <p>第15回：経営管理の実際 経営管理者に経営戦略等、経営の実際を聞く 講義 まとめ</p>

学修方法	講義、討議を中心にし、必要に応じてグループワークや経営管理者との討議を行います。				
評価方法	授業：事前課題の発表等 40%。最終課題レポート 60%				
課題に対するフィードバック	レポートへのコメント・返却時。課題に対するフィードバックはその都度講義の場面でフィードバックします。				
指定図書	下記参照。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
【改訂3版】グロービスMBAマネジメント・ブック	グロービス経営大学院/編著	ダイヤモンド社	2800	9784478004968	冊子版
参考書	「経営学入門」榊原清則 日経文庫 「非営利組織の経営」P.F. ドラッカー ダイヤモンド社 「非営利組織のマーケティング戦略」フィリップ・コトラー 他 第一法規 「グロービスMBA マネジメント・ブックⅡ」グロービス経営大学院編著ダイヤモンド社 「SWOT分析コーチングメソッド」嶋田利広 マネジメント社 「福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程テキスト1,2,3,4,」全社協 「グロービスMBA 新版 リーダーシップ」グロービス経営大学院編著ダイヤモンド社 「仕事と人間性」F・ハーズバーグ 東洋経済新報社 「新版 組織行動のマネジメント」S・P・ロビンズ ダイヤモンド社 「マネジメントの教科書」E・T・ライリー ダイヤモンド社 「リーダーシップ入門」金井壽宏 日経文庫 「人的資源管理 第2版」奥林康司他 中央経済社 「キャリア・アンカー」E・H・シャイン 白桃書院 「グロービスMBA 組織と人材マネジメント」グロービス経営大学院編著ダイヤモンド社 「社会福祉施設経営管理論」2025 宮田裕司編著 全社協 他 これらの参考図書については、事前課題として各授業の際に紹介します。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
事前・事後学修	事前学習：講義時に次回の課題を提示し、これをもとに分担してレポートを提出する。 事後学習：授業を振り返り、課題を整理する。				
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。				

科目名	教育工学特論
科目責任者	津森 伸一
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春
科目の位置付	2. 専門並びに近接分野 (領域) の高度な知識・技能を習得し、科学的かつ論理的な思考力を身に付けている 3. 幅広い視野を持ち、俯瞰的なものの見方と専門応用力を駆使して、問題発見と解決を図ることができる
科目概要	教育工学は工学的なアプローチを用いて学びを支援する学問であり、教育観や学習観の変遷に合わせて発展してきました。特に近年の ICT 機器やネットワークの発達により、教育工学の知見や成果が教育現場に急速に浸透しています。本科目では、教育工学の全体像を鳥瞰し、ICT 機器やネットワークを用いた教育支援・学習支援の歴史や現状を学びます。更に、学習効果を上げるための教育方法や課題について議論します。
到達目標	1. 教育工学の概要や対象とする分野を説明できる。 2. ICT 機器やネットワークを用いた教育支援・学習支援の方法を説明できる。 3. 効果的な教育方法を独自の視点で考案することができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1部 行動主義・認知主義的な教育・学習パラダイム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回 ガイダンス・教育工学とは ・第2回 行動主義・認知主義 ・第3回 CAI, 知的CAI ・第4回 CAI 作成演習 <p>第2部 構成主義・社会構成主義的な教育・学習パラダイム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第5回 構成主義・社会構成主義 ・第6回 eラーニング ・第7回 アクティブラーニング ・第8回 アクティブラーニングの設計 <p>第3部 教育システムのデザイン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第9回 反転授業 ・第10回 インストラクショナルデザイン ・第11回 学力評価 ・第12回 eポートフォリオ ・第13回 ルーブリック ・第14回 ルーブリック作成演習 ・第15回 今後の教育・学習 <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第1～15回</p>

学修方法	ショートレクチャーの後、ディスカッションやプレゼンテーションを繰り返しながら授業を進め、最後にレポートやリアクションペーパーを作成・提出する。				
評価方法	レポート課題（60%）、プレゼンテーション（30%）、授業参加姿勢（10%）により評価する。				
課題に対するフィードバック	プレゼンテーションについては即時フィードバックを行い、レポート課題やリアクションペーパーは学習管理システムを用いて授受を行う。リアクションペーパーに書かれた質問等には次の授業で回答する。				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	事前学修として次回授業で用いる授業コンテンツに目を通しておくこと。事後学修として授業内容を復習して理解を深めること。目安時間 40 分。				
オフィスアワー	所属：リハビリテーション科学研究科 研究室：3517 研究室 時間：木曜日 11 時～12 時 上記以外でもメール（shinichi-t@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。				